

東京海上A M社長「時勢捉えたチャンス追求」

2025/08/19, 07:00 JST

福原悠介

投資信託を組成する大手資産運用会社の東京海上アセットマネジメントは、個人顧客と金融法人向けの事業を強化する。

損害保険大手の東京海上ホールディングスの傘下として、保険契約に連動する投資商品もとりそろえる。今後の戦略や目指す姿について、今年6月に就任した長沢和哉社長に話を聞いた。



インタビューに応じる東京海上アセットマネジメントの長沢社長（6日、東京都千代田区で）＝福原悠介撮影 PHOTO: 読売新聞社

■回り始めた日本経済

——新体制で注力したい事業や分野は。

「弊社のビジネスで大きいのは、公的年金と企業年金。ここは引き続き注力するが、これから強化したいのは個人投資家だ。個人の投資家がこれほど資産形成を気にする時期は過去に無かった。お客様の資産形成にとってベストな商品を提供できるようにしたい」

「もう一つ（注力したい分野）は銀行などの金融法人だ。金利が付く経済は、リスクを取るバッファがある経済だ。今後、金融法人の投資ニーズは非常に強いものがあり、時勢を捉えたビジネスチャンスをしっかり追求したい」

——今後の事業戦略は。

「日本株の商品は手厚く提供できればと考えている。なぜかと言うと、日本は経済が動き出している時期にあるからだ」

「多くの投資家は、家の購入や教育費、老後資金などを日本円でまかなう。そのためには、サイクルが回り始めている日本経済に円で投資をして、円で果実を得てもらうことが大事だ」

「一方、世界中の投資機会をしっかりと見つけて商品化するため、グローバルなリサーチ力は今後も強化したい。人材、陣容にも積極的な投資をしていく」

■リスクを取る文化

——損害保険系の資産運用会社である強みは。

「損保系なので大規模な機関投資家のニーズに応えるだけの運用能力がある。特に弊社は、積極的なリスクを追求する商品をフルラインでそろえていることが大きな強みだ」

「損害保険会社は果敢にリスクを取ることで皆さまに便益を提供して、収益を上げている。新しいことに踏み出す勇気を持つカルチャーが、収益を積極的に追求する商品を提供できる背景にある」

——特徴的な商品は。

「保険契約が投資対象になる『保険リンク商品』というものがある。この種の運用では国内最大手で、受託残高は700億円ほどある。親会社が損害保険グループならではの強みのある商品だ」

「災害の有無と保険金の支払いがパフォーマンスに影響するので、マクロ経済の循環とは無相関だ。そのため分散効果が非常に高いというメリットがある。収益の安定性とインフレへの耐性もある」

「玄人的な商品ではあるが、販売会社と提携して、近いうちにポートフォリオの一部として個人の資産運用にも届けられれば」

■責任投資を遂行

——機関投資家の議決権行使にも注目が集まっている。

「議決権行使は非常に重要で、経営の根幹の一つ。ものすごく力を入れている分野だ」

「議案を精査するにあたり、会社提案か株主提案かは問わない。一つひとつ分析した上で、企業価値の向上につながる議決権の行使をする」

「一貫性を持った議決権行使ができるよう、ガイドラインや基本方針を定め、これにのっとり責任投資を遂行している」

——アクティビストの活動が盛んになり、株主提案は年々増えている。

「アクティビストが活躍する株式市場は、ダイナミックに変化している株式市場だ。日本株は資産形成の上で重要で、収益を追求するだけの意味がある資産クラスだと捉えられている」

「いい提案もあれば、悪い提案もある。アクティビストを一概に『いい』『悪い』と判断せず、議案ごとに考えなければいけない」

■資産運用立国に貢献

——米関税政策などで金融市場は不安定だ。今後の見通しは。

「地政学的に世界は大荒れで、各国がバラバラの状態だ。一番影響力のある米国ですら、どの方向に行くか分からない。そんな政治の上に経済があり、株や債券、通貨の揺れ動く状況は構造的に続くだろう」

「一方、世界経済が混乱している時、むしろ日本はサプライチェーン上の価値が高まる。過去ではベトナム戦争や朝鮮戦争などがそうで、経済の成長が加速した。中長期で見れば（現在は）非常にいい投資機会になると思う」

——最後にメッセージや今後の抱負などを。

「世界の将来を見据えて資金の出し手と使い手をつなぐ。これが投資だ。数年後にどんな企業群が重要な位置を占めているか分かる商品ラインアップになっている自信がある」

「弊社が飛躍するステージは万全だと認識している。市場環境やお客様のニーズに加えて、人材もそろっている。ニーズのある商品を積極的に出すことで、資産運用立国などみんなが幸せになるための政策に貢献できると考えている」

長沢和哉氏（ながさわ・かずや）

1994年慶大院修了、明治生命保険入社。2012年モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル入社、日本代表。25年6月から東京海上アセットマネジメント社長。神奈川県出身。